

藤沢市心のバリアフリー講習会を開催しました！

2020年1月19日（日）、藤沢市役所本庁舎5階会議室にて、「全盲のヴァイオリニスト」として、テレビやインターネット、ライブ等を通じて、全国各地でご活躍中の穴澤雄介様を講師にお招きし、「過去は変えられる、マイナスをプラスに」をテーマに、ヴァイオリン演奏を交えながら、ご講演頂きました。

穴澤様は、心臓と眼に障がいをもってお生まれになりました。音楽家を目指す過程の中で、視力低下が進み、楽譜が見えなくなって演奏が困難になると、ご自分で楽譜を作って作曲活動を始められました。プロの音楽家として活動を開始された当初は、演奏実績が少ないことを理由に企業から断られることが続きました。地域の病院や福祉施設等へボランティアとして積極的に訪問し、音楽を通じて貢献したいと活動された結果、その実績が企業に認められ、演奏の依頼が増えていったそうです。自分にとってコンプレックスになる物、その物自体は辛い物ではあるが、それが素敵な出来事を運んでくる・素敵な出会いを与えてくれると信じ、自分の考え方を变えることで、人生は好転するのだとお話してくださいました。

穴澤様は目をご不自由ですが、ホワイトボードへ3つの言葉を力強く書いてくださいました。

『人生はトラック競技ではない』

同じ枠組みの中で比較をされてしまう社会では、「人と違うことが不安」「みんなと同じでなくてはならない」と感じてしまう方が多いのではないかと。人と違ってよい。自分らしく生きようと思えた時、人生は違ったものに見えてくるのではないかと。

『不可能を可能にするのではなく、不可能が新たな可能性を作る』

「できないこと」を「できる」ように努力することは必要なことかもしれないが、そのことばかりに執着すると、他の「可能性」に気づくことができなかつたり、見つけることができなかもしれない。「障がいがあるからできない」ばかりではなく、「障がいがあるからこそ思いつくことがある・できることがある」そうした考え方を自分自身や社会がもつことで、もっと生きやすくなるのではないだろうか。

『ヒーローになれるタイミングはみんな違う』

ヒーローには、すぐにはなれるものではないが、誰にでもヒーローになれる時がやってくる。ただ、そのタイミングは人それぞれに異なるだけ。

穴澤様は、「心のバリアフリー」についても触れてくださいました。「音楽活動を通じて自分と出会ってくださった方々が、自分のことを楽しい人だと思って頂いて、その方々が別の障がいをもった方と出会った時に、垣根なく気軽に関わって頂けるようになれば、それが自分の役割ではないかと思う」「もう1回この同じ人生を歩んでもいいと思っている」と話してくださいました。

お話の合間にヴァイオリンの演奏を織り交ぜながら、講演を進めてくださったのですが、穴澤様のお人柄やこれまでの生き方や考え方について理解が深まっていくにつれ、利き手側の受け止め方として、演奏がより深いものとして心に響いてくるようでした。